

郷土を知り、郷土を愛する

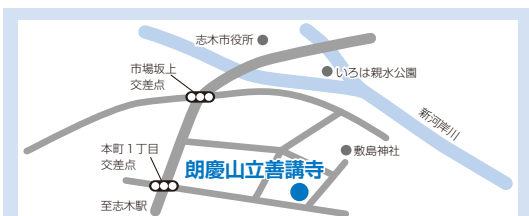
志木市 歴史とんぼ

—— 執筆・協力 志木のまち案内人の会 ——

第51回 朗慶山立善講寺（日蓮宗）

富士道を行き、敷島神社参道に入る角に建つ立善講寺。このお寺は、日蓮宗大本山の池上本門寺（東京都大田区）の寺域にあった照栄院を起源とする南谷檀林と呼ばれた建物を、元禄2年（1689）に朗慶山立善講寺と号したといわれています。

明治初年に志木の日蓮宗徒は、一心講として田子山富士塚築造にあたり、四合目に南無妙法蓮華経と髭題目で刻した石碑を建てるな



ど活発に活動していました。この熱意は、身近な場所に寺院を得たいという思いとなり、境内地や資金の準備をして、池上本門寺に誘致をお願いしたのです。この住民たちの誓願により、明治21年立善講寺が当地へ移転してきました。かつては、500坪あまりの広い境内だったようです。

昭和初期、このお寺を子どもたちはお堂と呼び、庭で「独楽まわし」「凧あげ」「兵隊ごっこ」「運動会ごっこ」といった遊びに熱中したそうです。また当時は、土用の丑の日に頭痛のまじないとして頭に乘せたほうろく（素焼きの浅い皿型の土器）の上で、もぐさを焼く「ほうろく灸」という行事を行っていました。

詳しいことは不明ですが、明治41年より5年間、志木町の役場として使用されたという歴史もあるそうです。かつては、立派な樹木に囲まれていたようですが、「庭を燃えるような色に染めて咲いていた百日紅」も数年前の台風で倒れ、その名残が入り口に見えます。明治に移築された本堂は、池上本門寺にあった柱などの部材をそのまま利用した堂々とした造りです。柱と柱をつなぐ中央上部の彫刻は、作者等不明ですが、芸術性の高いものです。

参考文献：「志木市の社寺」「市場回顧録～荒井勝蔵遺文集～」



▲朗慶山立善講寺(正面) ▲本堂中央上部の彫刻



本年も大変お世話になりました。

年の瀬が近づいてきました。振り返りますと、今年は年明け早々に能登半島地震が発生し、新年を祝う気持ちから一転、防災対策の大切さを痛感する1日からスタートしました。現在も復旧・復興が続いており、1日も早く日常に戻れますことを心よりお祈り申し上げます。

防災対策は、市でも特に力を入れている分野の1つですが、皆さんの安全・安心を守るためには、市役所だけでなく、食品会社やインフラ事業者、福祉事業所といった民間事業者との連携も重要となってきます。このようなことから、支援物資の受入や配送等に関する協定を、8月には佐川急便株式会社、10月にはヤマト運輸株式会社と新たに締結し、防災対策をさらに一歩進めました。

今年は、先の防災協定をはじめとして、セブンイレブン店舗の協力によるフードバンクの食品を回収するためのボックスの設置や、マルイファミリー志木と連携した志木駅前のにぎわいづくりといった新たな取組もはじまったところであり、各分野における民間事業者との強いパートナーシップを構築できた1年だったと感じています。

また、市役所の窓口改革について、大きく前進させることができた1年でもありました。4月には新たに事前

予約制の「おくやみ窓口」を設置し、亡くなった方に関する「住民登録」「保険」「年金」などの多岐にわたる全ての手続きを一か所の専用窓口で行うことで、ご遺族の負担を軽減する仕組みを整えました。そのほか、電子申請が可能な手続きの数も昨年比2倍の200以上に増やすなど、利用しやすい市役所を追求してきました。

一方で、昨今の建設業界における人手不足の影響を受け、新複合施設建設工事については、入札参加申込者の辞退により、スケジュールの再構築を余儀なくされることになりました。現在、市場調査や建設業界の現状分析を進めており、年度内に方向性をお示しできるよう最大限のスピード感をもって取り組んでいます。

また、人口減少、少子化、高齢化といった全国的な課題についても、子ども医療費助成の拡大やフレイル予防の充実など、幅広い対策を進めました。来年も、10年、20年先も持続可能な「選ばれる志木市」に向け、これらの課題に真摯に向き合い、全力で取り組んでいきます。

さて、年末といえば、忘年会、クリスマス、お正月と「おいしい」イベントが続きます。楽しい食事は健康の素。いつまでもおいしく食事を楽しめるよう、市では、歯や口腔機能の衰えである「オーラルフレイル」に着目し、いろは健康ポイント事業に参加している75歳以上の方を対象とした「舌圧測定会」をスタートしました。標準値を下回った方には、フォローアップ講演会を受講していただき、普段から意識的に口を動かすことで予防や改善につながるといった意識啓発を行っています。歯や口腔機能の維持・向上は、健康寿命の延伸につながります。暴飲暴食には気をつけながらも、年末年始は食を楽しみながら、家族や友人と語り合い、ともに英気を養っていきましょう。